

# 会 議 議 事 録

会 議 名	令和7年度 学校関係者評価委員会		
開 催 日 時	2025年 5月22日 (木) 10:00~12:00		
会 場	東京福祉専門学校 第3校舎 2-4 教室		
参 加 者	委員等	8人	卒業生代表：西田 憲司様 (特別養護老人ホームきく) 保護者代表：永井 知子様 (社会福祉科2年生在籍) 高等学校代表：上市 善章様 (市原中央高等学校) 地域代表：赤羽根 智英子様 (くすのき さざなみ会) 業界関係者：池田めぐみ様 (特別養護老人ホームなぎさ和楽苑) ：若松 弘樹様 (児童養護施設 聖友学園) ：皆川 隆太様 (地域活動支援センターえどがわ) ：中里 武史様 (東京都作業療法士会)
	事務局	12人	東京福祉専門学校 学校長 小林 和弘 運営本部長 結城 健二 (学校法人滋慶学園評議員) 事務局長 松川 勝吉 事務局次長 菊池 紀子 教務部長 北村 健明 広報センター長 小泉 佳代 (書記) 産学連携推進センター長 石岡 真典 教務事務・学生サービスセンター長 坂本 美生
会 議 録	<p>1. 学校長挨拶 (小林)</p> <p>お忙しい中、ご出席ありがとうございます。</p> <p>毎年学校運営に深く携わっていただいている地域・業界・高等学校の代表の皆様にご出席頂き、東京福祉の成績表をつけていただく会です。</p> <p>我々は4月に新入生を迎えて新たなスタートを切りましたが、本日は2024年度についてご評価いただく時間となります。</p> <p>私も医療・福祉の現場にかかわっていますが、いずれにしても人手不足が続いています。全国的に新入社員の処遇環境の引き上げなどがニュースになっているが、福祉業界はなかなか追いつかず、引き負けてしまっている。そしてこれが社会の定番となっている。</p> <p>そんな中で、学生たちが東京福祉の門をたたいてくれるということは大変ありがたいことだと考えています。我々としては、そんな学生たちの期待に応えられるような学校でありたいと考えていますので、本日はぜひ忌憚のない意見をいただきたい。</p>		

## 2. 委員のご紹介

新任委員への委嘱状のお渡し

市原中央高等学校 校長 上市様

保護者代表 社会福祉科 2年 永井様

西田様：

私自身も卒業生です。卒業してはや 30 年くらい。平成 8 年に卒業している。

学校のこと、学生のこと、先生のこと、採用現場から介護を盛り上げていきたい。

上市様：

福祉については、父が病院にかかりリハビリ等を実施したが、そのあと急性期から戻って、長く福祉のみなさんに支えてもらった。気持ちがある子供たちはたくさんいる。社会の整備が必要かと思う。

赤羽様：：

昨年引き続き、委員の責任を感じています。入学式で両国国技館で参加させてもらった。参加した人はとても喜んでいました。本日のことを伝えていきたい。

永井様：

子供がとても楽しく学校生活を過ごしている。私でお役に立てることがあればと思い、引き受けさせていただきました。

池田様：

法人として、今年 60 周年を迎えた。江戸川区に来てからも 45 周年となる。東京福祉の学生たちには長く関わっていてお世話になっている。

皆川様：

江戸川区が精神障害者の相談施設を充実させたいとのことで、地域活動支援センター こいわを立ち上げた。今は計画相談や、就労支援もしている。経営と現場と両方している。

中里様：

卒業生です。リハビリの仕事になるが、PTは 12 万人、OTは 6 万人。人数は少ないがニーズはかなりある。地域、市区長村、e-sports も障害者が参加できるようになど… 養成校のみなさんと協力していきたい。

## 2. 2023 年度事業報告（松川）

学校の運営責任者をしています。

本日の目的は、昨年 1 年間の自己評価についてお伝えさせていただきます。それについてみなさんから二次評価をいただきたいです。

評価表に沿ってご説明をさせていただき、ご意見評価をいただくというかたちになりますのでよろしくお願い致します。

### ○組織目的

本校は福祉に関わる人材を養成する教育機関から、福祉・リハビリ・保育などを中心とした業界（卒業生）との様々な形での連携によってそれらを繋げる人材を輩出する「社会と福祉のネットワーク」機関を目指す。

そのために関連業界の変化をはじめ、DX・デジタル・ロボティクスなど、社会の

変化に対応した「新しい福祉の学び」や「現場体験プログラム」を積極的・継続的に開発し、顧客満足度（CS）の高い教育を提供し続ける。  
また、ひとり一人が強みを成果に活かし、成長によりチームへの貢献を感じられ、成果を称賛し合う運営を通じて職員満足度（ES）の高い組織となる。

#### 2023年事業報告

##### ・入学者数

社会福祉科：36名 心理カウンセラー科 44名 社会福祉士一般養成科：72名  
介護福祉士科：74名 作業療法士科：17名  
キャリアデザイン科：26名  
こどもソーシャルワーカー科は募集を年度途中で中止した。

##### ・中途退学者数

社会福祉科：8名 IT医療ソーシャルワーカー科：0名  
心理カウンセラー科：7名 社会福祉士一般養成科：1名  
介護福祉士科：2名 作業療法士科昼間部：6名  
作業療法士科夜間部：1名 こども保育科昼間：5名  
キャリアデザイン科：3名 こどもソーシャルワーカー：1名  
総学生数：34名（5.1%）

##### 2023年度 50名（6.9%）

学校全体としては昨年より、かなり改善することができた。

##### ・国家試験合格率（新卒）

社会福祉士（4年制）：72.4% 社会福祉士（一般養成）：96.2%  
精神保健福祉士（社会4年制）：73.9% 精神保健福祉士（心理4年制）：71.4%  
作業療法士（昼間部）：100% 作業療法士（夜間部）：96.0%  
介護福祉士（2年制）：95.5% 介護福祉士（2年制・留学生）57.9%  
全学科で全国平均を上回った。  
作業療法士科昼間部で、開講以来初めての100%を達成。

### 3. 自己点検項目説明（配布資料参照）

#### ●教育理念・目的・育成人材像（松川）

##### 理念・目的・育成人材像：3

##### 3つの建学の理念

実学教育、人間教育、国際教育を学園の理念としても掲げております。

##### 組織目的、育成人材像

多様な人や地域に応じたサービス提供を行うための変化・変革が迫られている福祉業界で、変化に対応しながら、それぞれの現場におけるニーズに対応できる「主体性」と「協働する力」を備えた、業界をリードする（良い影響を与える）「学び続ける人材」の育成を目指す。

●学校運営 (松川)

運営方針 : 3

事業計画 : 3

「事業計画」にて単年度～5カ年の運営方針や組織を見直している。

運営組織 : 3

各部署の会議による決定を最高議決機関である「運営会議」で承認。

人事・給与制度 : 3

2021年度より新人事給与制度を実施。HRMOS という WEB システムを活用している。

意思決定システム : 3

各部署の会議による決定を最高議決機関である「運営会議」で承認。

情報システム : 3

クラウド上で運用できる「業務システム」や「サイボウズ ガルーン」、「Microsoft Teams」などの各種情報システムを活用している。

●教育活動 (北村)

全体として、昨年度 (2024 年度) に整え、今年度 (2025 年度) から新たなチャレンジを始めているところです。

目標の設定 : 3

教育方針・評価 : 3

- ・生成 AI を活用した学びを構築→学生が主体的に学ぶ環境を整える
- ・キャリア教育として「7つの習慣」をベースとした授業展開→クラスで問題解決できる考え方を身に着ける

成績評価・単位認定 : 3

資格・免許等の指導体制 : 3

教員・教員組織 : 2

- ・2022年度よりOTの専任要件が厳しくなり、人材の確保が難しくなっている。

教員研修の紹介

研修① 『7つの習慣研修』

研修② 『MMP改革研修』

●学修成果 (石岡)

就職率 : 3

「職業人教育を通じて社会に貢献する人材育成」を目指しているなかで、内定率100%はよい傾向にある。しかし、専門職就職率が94%と課題が残る。福祉業界に貢献する学校として、100%を目指していきたい

資格免許の取得率 : 3

国家試験合格率については、全国平均以上の合格率を保つことができている。また、作業療法士科昼間部においては、受験者数に対し、合格率100%という結果を出すことができた。

卒業生の社会的評価 : 2

●学生支援 (北村)

就職等進路 : 3

中途退学者への対応 : 3

退学率の目標を達成することができている。

理由としては、組織編制をし、各学科長を中心に、カリキュラムや教育体制の見直しを行い、チームとしての意思統一をし、教育を行った結果、目標達成につながった。担任だけでなく、部署の垣根を越えて多くの人を巻き込んでチームでアプローチした。

学生相談 : 3

学生生活 : 3

保護者との連携 : 3

卒業生・社会人 : 3

卒業後の就職支援については「生涯就職支援システム」として運用されている。

\*\*\*\*\*

生成AIを活用した学びの例 (高野)

Felo のデモンストレーションを利用した、授業での活用例の紹介。

何かを作成する等の作業に時間を割くのではなく、考える時間に充てて欲しいと考えている。

小テストの作成例→問題、採点だけでなく、解答解説も作成してくれる。

教員にとっては効率的に、学生にとっては自己のレベルに合わせて作成してくれるという利点がある。

学生の興味関心にあったものでも、活用することができる。

→学生が自ら学びたいと思えるようなツールになりえるのではないかな。

\*\*\*\*\*

皆川様 :

中途退学者について、特に精神的な不調をきたしている学生にとって、自己理解を深めるために生成AIを使えるのではないかな？友達にも、親にも相談できないときに、ちょっと話しかける相手になるのではないかな。

中里様 :

OTの教員要件についてですが、教員に求められるものが高くなっている。学生の時代から、卒業後も学び続けることが大切だということを伝えるのが大切。卒業生向けの同窓会、こちらで開催している会もうまく活用して欲しい。

OTにとってゆくゆく教員になるという選択肢も広がってくる。

西田様 :

自分が学んだことと全く違う。学生時代優秀ではなかったが、この学校で学んだことと実習で学んだことと、働きだしてから乖離があった。ツールはとてもよい。しかし現場は利用者の方の声を拾うことが仕事。AIはあくまでツールであるから、現場ではそれを実力と思ってほしくない。

上市様：高校生に授業にも同様に AI を活用し展開することを考えている。子供たちの力を伸ばすという点については、7 つの習慣や生成 AI をどう活用していくかなど、高校レベルでも同じことを実施している。理論と実践をどう整合性をとっていくかが課題ではないか。

小学校～大学と、子供たちが「学び方」を学んでいってくると、よい世の中になっていくのではないかと考えた。

●教育環境（坂本）

施設・設備等：3

Teams を導入し 2 年が経過し、教員・学生ともに慣れてきてうまく活用できている。

学外実習・インターンシップ等：3

5 年振りに海外研修を開催することができた。研修費用が高額になってしまったことが課題。

防災・安全管理：3

●学生の募集と受け入れ（菊池）

学生募集活動：2

コメディカル分野・リハビリ分野の志望者数減少、大学志望者数の増加に伴い、作業療法士科の入学生が引き続き減少。次年度修業年限の変更（3 年制から 4 年制へ）をし、新入生を迎えた。

留学生については大幅増加。

入学選考：3

大学の入試制度を鑑み、AO 入試制度の名称変更予定。

学納金：3

入学選考や学納金は募集要項に明記している。見直しが必要な場合、その根拠が適正であるかを理事会・評議員会で決議し、決定している。

●財務（松川）

財務基盤：3

予算・収支計画：3

財務状況においては専門部署とともに予算の執行状況を分析・把握しており問題はない。

監査：3

財務情報の公開：3

法令にもとづき適切な監査を実施おり、財務状況については毎年決算終了後にホームページ上で公開を予定している。

●法令等の遵守（松川）

関係法令、設置基準等の遵守：3

学校運営に関係する法令・設置基準は順守しており、申請・届け出等も都度実施されている。

2022年1月よりコンプライアンスに関わる専門部署を設置。学園本部とも連携し、法令順守の精度向上に努めている。また年3回コンプライアンスに関連する研修を実施し、職員の知識向上を図っている。

個人情報保護：3

個人情報保護については、日本プライバシー認証機構による全職員向けの研修会を毎年実施している。

学校評価：3

教育情報の公開：3

●社会貢献・地域貢献（松川）

地域貢献・地域貢献：3

地域共生社会構築の拠点として江戸川区より委託を受けている「なごみの家 葛西南部」「地域活動相談・支援センターかさい」を運営しているが、学生の学びの場としても活用している。

江戸川区からは潜在的介護人材の職場復帰や介護者の不安を軽減することを目的とした「介護の担い手研修」を委託され運営し、行政と連携した地域貢献をおこなっている。

ボランティア活動：3

葛西地域のお祭りに学生ボランティアとして派遣したり、西葛西図書館とのコラボによる「高齢者のためのスマホ教室」などを通年を通して実施した。

4. 委員からの質問、ご意見

西田様

何か地域の橋渡しをしたい、処遇をどうするのか、介護の社会的インフラをどうにかしたいという思いで、何かお役に立てればと考えている。人を大切にするというテーマをもってと思っています。実際に今施設でアルバイトをしてくれている留学生もいた。彼女が職員としての目線、学生としての目線と違いはあるが、思いは一緒。

池田様

去年と今年ですごく変わったと感じた。時代の変化に合わせて職員の皆様が変化をきたしていると感じた。

自分たちでどうやってツールを使ったらいいか、を現場でも考えている。教育の現場で学んで来ていてくれることで、現場でも応用ができる

理論と実践の部分では、生身の人間を相手にする仕事なので、実習のときに学んでいただきたい。

特定技能の方と、留学生の方を比較すると、生活の環境整備の部分で留学生の方がきちんとできると感じた。

若松様

奨学金を肩代わりする事業が始まった。施設側として、福祉分野の魅力をしっかり伝えていきたいと考えた。

アウトリーチしていったら、仕事の魅力を伝えていくことが大切だと感じる。

皆川様

法人として、学生も1職員が1社会資源になる。という考えのもとやっている。一人ひとり特性があるから、それぞれが自分の良さを100%生かせるようにという視点で、職業選択・職場選択に臨んでもらえたらなと感じた。

上市様

子供達にはいろんな選択肢がある。いろんなものを吸収している。何を選んだとしても、頑張ったことは自分に返ってくると伝えている。

「日本の心なんだよ」といった授業中の介護教員の言葉が印象に残った。

言葉を超えてわかっていってもらおう。福祉の現場ではとても重要。

いろんな問題が学校の中では拡張して起こっているんだろうなと想像した。

中里様

コロナが明けてからのことが、実を結んできたのではないかと考えた。

団塊の世代が超高齢者になっていくタイミング、次が2040年のタイミング、東京都の人口はさほど減らないけど・・・という中では多様な人材を輩出しなきゃいけない、時代に合わせて教育してくれていると感じた。

生成AIを見て、インプットするという点においては良いかなと感じた。ただ大切なことは、それをどうアウトプットしていくかが大切だと感じた。答えを求めがちだが、「問い」がとても大切、うまく活用して欲しい。

作業療法士に関しては、成り手を増やしていくことが大切。

永井様

生成AIについては、10年20年すると当たり前になる。AIの使い方を今学ぶことは大切。レポートをAIで作成することはありなのか、を聞いてみたかった。

海外研修については、参加したかったけど、1年生だったこと、一緒に行く友人がいなかったこと、費用が上がったことで躊躇し参加しなかった。

赤羽様

スマホ教室で初めて学生と関わった。そのときに、とても優しく教えてくれた。その他、学園祭、地域のお祭りでよくしてくれた。

二葉小学校とかかわりがあるが、そこにも12か国の子供たちが通っている。ここと同じく相互に通訳しあっている。

高齢者と学生がうまく地域貢献・社会貢献をしたいと感じた。

5. 終わりに（結城）

私立の大学599校中354校が定員割れ、222校が財務上赤字となっている。人口減少については18歳人口が昨年106万人、今少し増えて109万人だが、5年もしないうちに104万人になる。10年後には100万人を切り97万人になる。

昨年の出生率60万人で、将来はそれくらいの受験生になる。

こういう話をするすると募集活動に力を入れなければ…となるが、組織を昨年と一気に変えて、教育に戻ろうとなった。学生一人一人を大切に、という部分を強化した。

AIの話が頭に残ったかもしれないが、教育をどうするかが大切。

教職員も直面しているが、AIは過去のデータを駆使して生成するが、不確実な世界をどう生き抜くか、考えていくことが我々の仕事であり、学生に伝えていくことが我々の仕事である。

ぜひ業界・地域・保護者のみなさまにご協力いただきたい。

以上



学校長印